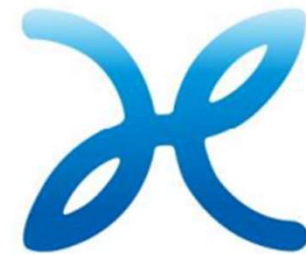

2026年3月期 決算説明資料
(資本コストや株価を意識した
経営の実現に向けた対応について)

2026年5月15日



新たな価値づくりへの挑戦
✕ イワブチ株式会社

1 会社概要

2 当期実績

3 今期予想

4 資本収益性向上に向けた取り組み

1 会社概要

会社概要

新たな価値づくりへの挑戦

 **イワ吉株式会社**

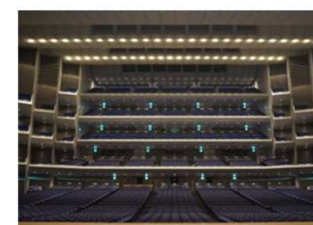
- 1950年8月1日創立 2025年に創立75周年を迎えました
- 金属製品（架線金物等）を製造、販売
- 官公庁、地方自治体、電力会社、通信会社等の**インフラ関連**がエンドユーザー
- 配電、通信などの分野では**トップクラス**のシェア
- 交通信号向けは**全国1位**のシェア



- 従来の架線金物に捉われず、新たな価値を提供する事業を「**コネクタ事業**」と位置付け、幅広いサービスの展開



ペロブスカイト太陽電池関連



特定天井対策工事関連



再生可能エネルギー関連

2 当期実績

当期実績（前期比）

新たな価値づくりへの挑戦

 **イワジマ株式会社**

		2025年3月期 (前期)	2026年3月期 (当期)	増 減	備 考
業績の 概況	売上高（百万円）	12,642	13,528	+886	防衛関連・配電線路需要の増収
	営業利益（百万円）	878	1,456	+577	増収効果+価格改定
	経常利益（百万円）	959	1,537	+577	
	親会社株主に帰属する 当期純利益（百万円）	699	940	+241	
	1株当たり当期純利益（円）	651.10	889.01	+237.91	
株主還元の 状況	1株当たり配当金（円）	250	300	+50	記念配当実施
	ROE（%）	3.7	4.7	+1.0	
	自己株式取得額（百万円）	0	276	+276	株主還元及び資本効率向上
	総還元性向（%）	38.4	62.9	+24.5	

当期実績（当初予想比）

新たな価値づくりへの挑戦

 イワジマ株式会社

		2026年3月期 (当初予想)	2026年3月期 (当期)	増 減	備 考
業績の 概況	売上高（百万円）	13,063	13,528	+465	配電線路関連需要の増収
	営業利益（百万円）	731	1,456	+725	増収・生産性向上
	経常利益（百万円）	836	1,537	+701	
	親会社株主に帰属する 当期純利益（百万円）	528	940	+412	
	1株当たり当期純利益（円）	491.70	889.01	+397.31	
株主還元の 状況	1株当たり配当金（円）	280	300	+20	業績予想を上回り増配
	ROE（%）	2.7	4.7	+2.0	
	自己株式取得額（百万円）	0	276	+276	株主還元及び資本効率向上
	総還元性向（%）	56.9	62.9	+6.0	

需要分野別当期実績

新たな価値づくりへの挑戦

イワボテ株式会社

【トピックス】

- 交通信号関連は、全国的にLED工事が進められ好調
- 配電線路関連は、レベニューキャップ制度による高経年化設備の更新工事が好調
- その他は、防衛関連の無線システム装置の受注が好調

(単位：百万円)

		2025年3月期（前期）	2026年3月期（当期）	増 減
需要分野別 概況 (売上高)	交通信号・標識・ 学校体育施設関連	1,638	1,692	+53
	C A T V・防災無線関連	1,094	1,029	△64
	情報通信関連	2,732	2,742	+10
	配電線路関連	4,075	4,418	+343
	その他	3,102	3,644	+542

3 今 期 予 想

今期予想

新たな価値づくりへの挑戦

 イワジマ株式会社

	2026年3月期 (当期)	2027年3月期 (今期)	増 減	備 考	
業績の 概況	売上高 (百万円)	13,528	13,545	+16	配電線路関連需要の増収
	営業利益 (百万円)	1,456	935	△521	原価上昇の影響
	経常利益 (百万円)	1,537	1,067	△469	
	親会社株主に帰属する 当期純利益 (百万円)	940	681	△259	
	1株当たり当期純利益 (円)	889.01	653.82	△235.19	
株主還元の 状況	1株当たり配当金 (円)	300	330	+30	株主還元重視による増配
	ROE (%)	4.7	3.3	△1.4	
	自己株式取得額 (百万円)	276	510	+234	当期は実績、今期は上限額を表示
	総還元性向 (%)	62.9	124.3	+61.4	100%超の水準を確保

需要分野別今期予想

新たな価値づくりへの挑戦

イワボテ株式会社

【トピックス】

- CATV関連は、ケーブルテレビ事業者による主要な更新工事が当期までに完了し減収
- 配電線路関連は、高経年化設備の更新需要に加え、新製品の投入および販売拡大により増収
- その他は、自治体発注の建設関連工事の受注により増収

(単位：百万円)

		2026年3月期 (当期)	2027年3月期 (今期)	増 減
需要分野別 概況 (売上高)	交通信号・標識・ 学校体育施設関連	1,692	1,649	△43
	C A T V ・ 防 災 無 線 関 連	1,029	868	△161
	情報通信関連	2,742	2,728	△14
	配電線路関連	4,418	4,590	+172
	その他	3,644	3,710	+66

4 資本収益性向上に向けた取り組み

PBRに関する現状分析

新たな価値づくりへの挑戦

イワボチ株式会社

株価はPBR1倍を割れる状況が継続、当社の企業価値に対する評価は十分とは言えない。
資本コストを意識した経営に取り組むことで企業価値の創出を目指す。

2022年3月期からのPBR推移（倍）



注：PBR=年度末株価/1株当たり純資産(年度末連結実績)

当社の株主資本コスト(参考値)の前提



- ◆ 客観的な資本コストの参考値の一つとしてCAPM⁽¹⁾を使用
- ◆ リスクフリーレートは国債の10年利回りを使用
- ◆ β 値⁽²⁾については当社の5年月次 β を使用

注：(1) β 値、リスクプレミアム、リスクフリーレートから期待収益率を計算するモデル
(2) 市場全体の動きに対する個別証券・ポートフォリオの感応度

株主資本コストに関する現状分析

新たな価値づくりへの挑戦



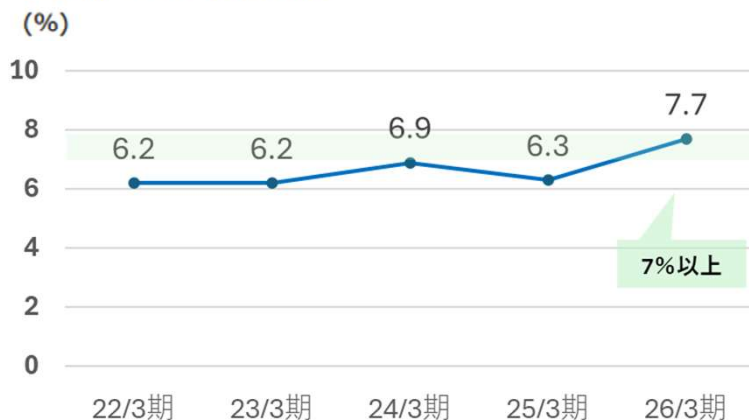
株主資本コストを7%以上と想定し、これを上回るROEを目指す方針

有利子負債への依存度が低いため、CAPMによる株主資本コストを重視しています。

■ 株主資本コストに関する認識

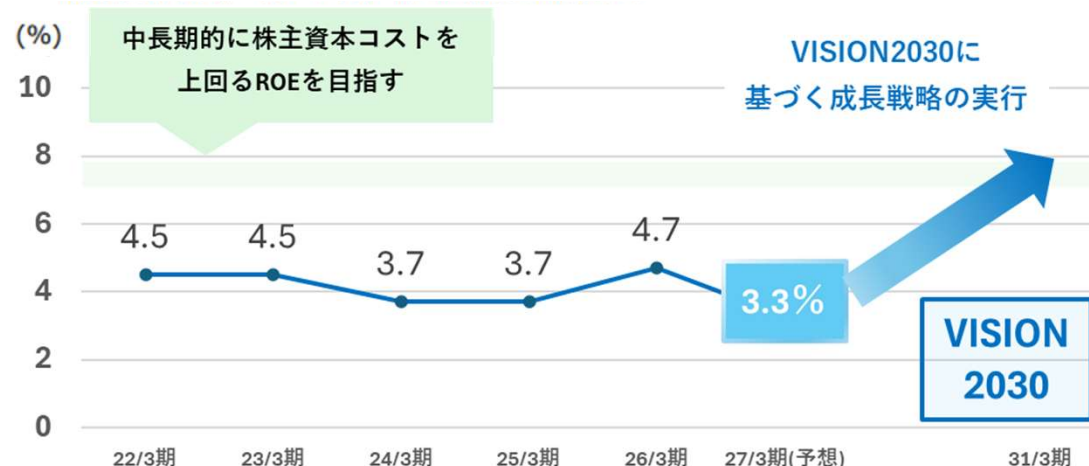
当社の株主資本コストの水準は7%以上と認識。

■ 株主資本コストの推移



■ 中長期的に目指すROEの水準

PBR改善に向け、中長期的な目線でROE水準が株主資本コスト(7%以上)を上回ることを目指す。



ROE改善への取組み

新たな価値づくりへの挑戦

イワボチ株式会社

基本的な考え方：3つの要素によるROE向上

$$\text{ROE改善} = \text{収益力} \times \text{資産効率} \times \text{資本構成}$$

第1の要素：収益力の強化

■売上成長

- ・架線金物事業(ジョイント事業)の深化
(高付加価値化・顧客基盤強化)
- ・新規事業(コネクタ事業)の創出
(新規市場・サービス領域の拡張)

+

■利益率改善

- ・工場更新・設備投資による生産効率向上
- ・自動化・データ活用による原価低減
- ・サプライチェーンの最適化

👉 売上成長 × 利益率改善により収益力を強化



第2の要素：資産効率の向上

■資産効率

- ・棚卸資産の適正化・回転率向上
- ・非事業資産(現金預金、政策保有株式)の圧縮
- ・低収益資産の整理
- ・グループ再編・機能再配置

👉 投下資本の圧縮・回転向上により資産効率を改善



第3の要素：資本構成

■財務戦略

- ・キャッシュアロケーションの最適化
- ・成長投資と株主還元のバランス
- ・必要に応じた外部資金の活用

👉 資本構成の最適化により資本効率を向上

👉 連結配当性向30%を下限の目途に必要な応じて自己株式取得を含む還元額の継続的な維持・拡大を目指す



➡ 3つの要素を一体的に推進することで、ROEの持続的な向上を実現

中期経営計画の策定状況について

新たな価値づくりへの挑戦

 **イワジマ株式会社**

当社は、持続的な成長と中長期的な企業価値向上の実現に向け、資本コストおよび株価を意識した経営の高度化に取り組んでおります。

現状において、当社株式は引き続きPBR 1倍を下回る水準で推移しており、またROEについても当社が認識する資本コストを下回る水準にとどまっていると認識しております。

当社は、これらの状況を真摯に受け止め、資本効率および市場評価の改善が重要な経営課題であると考えております。

こうした認識のもと、当社では現在、抜本的な企業価値向上を目的とした中期経営計画の策定を進めております。

本計画においては、より効率的な事業運営や成長投資のあり方を含む事業戦略、資本効率の向上および株主還元最適化を図る資本政策、ならびに市場との建設的な対話の強化および経営の透明性向上に向けたIR・ガバナンスの強化を含め、包括的な施策を検討しております。

中期経営計画につきましては、現在鋭意策定中であり、**本年11月中旬に予定しております中間決算発表時を目途に公表する予定**であります。

免責事項

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が発表日現在において入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社の判断が含まれております。実際の業績等は、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。これらの目標や予想の達成および将来の業績を保証するものではありません。

新たな価値づくりへの挑戦
 **イワ吉子株式会社**